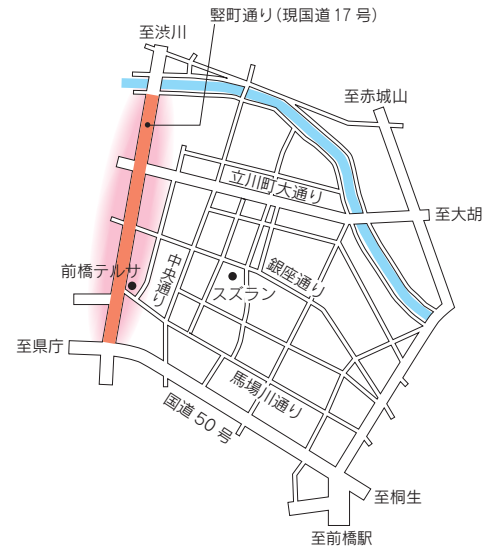


豎町

Tatsu-machi



大正時代の豎町通り



国道17号の歩道に設置された
萩原朔太郎撮影の豎町通りの記念碑



今も残る豎町神明宮

おじいちゃん：今日は豎町に行ってみよう。

ボ：ク：なんて読むの？

おじいちゃん：「たつまち」と呼ぶんだよ。

ボ：ク：いつからこの町名があるの？

おじいちゃん：江戸時代からあるんだけど、江戸初期は

前代田村、下之町（桑町、他隣町1を含む）

とっていただよ。

ボ：ク：今はどこになるのかなあ。

おじいちゃん：豎町は国道17号線と国道50号線の交差す

るところから北上し広瀬川の架かる厩橋

までの界限だね。

ボ：ク：なんでそういう町名になったの？

おじいちゃん：現在の国道17号線は豎町通りで、今もそ

う呼んでいるね。この通りの両側界限が

南北の方向にまちが連なっていたからか

な。豎は縦だからね。

ボ：ク：当時の豎町だった様子を見てみたいよ。

おじいちゃん：通り沿いは漆喰（しつくい）で塗られた

められた瓦屋がずらりと軒を並べ、各種

の間屋筋になっていたんだよ。今でも呉

服屋さん、履物屋さん、荒物屋さん、お

ボ：ク：何か活気があった通りだね。ところで、

連合共進会って何？

おじいちゃん：連合共進会とは、関東、東北合わせて一

府十四県が参加し、農産物や工業製品な

どの物産を出品させて一堂に集め、多く

の人々に見てもらいお互いに技術の交

流、発達をはかるための展示会だった。



市制施行 60 周年記念事業「前橋グランドフェア」開催の協賛祭りでの「堅町」の人々と街並み
(昭和 29 年 10 月 15 日)

このような物産展の他、各種大会、サーカスや活動写真などが催されたようだ。今でいう万国博覧会のようなものだね。

ボ ク…この連合共進会によってまえばしは何か変わったの？

おじいちゃん…群馬県が誕生して以来の最大の行事であつただけど、この連合共進会の開催にあたり、まえばしは、製糸業に活況をもたらし、前橋駅の拡充、道路整備を始めたとする事業などが行われ、まえばし界限は一挙に近代化する役目を果たし、あたりは一変し、短期間のうちにまえばし市民の生活文化に大きな変革をもたらしたんだ。前橋渋川間の馬車鉄道を路面電車に転換し、同時に渋川伊香保間も電車化するという大きな事業もその一つで、連合共進会を観覧した後、この路面電車で伊香保温泉を訪れる人達もいたそうだ。

ボ ク…今はもう路面電車、ないよね。なんとなく寂しい感じだよ。国内の都市の中にはまだ路面電車が走っているよ。

おじいちゃん…国道17号線として堅町通りが拡幅されたけど、交通事情の変化やまちの発展の障害として考えられたことが原因で消失してしまつたのかな。

ボ ク…他に何かあつたの？

おじいちゃん…今のテルサの西側に前橋城の坪呂岩（つぼろいわ）御門があつたよ。つい最近まで、門の石垣が残っていたけど、マンションが建設された時、消えてしまつたようだ。その北には、つい最近まで、明治期

から知られるまえばし切つての最古の料理店であつた嬉野（うれしの）旅館があつた。また、今のテルサの場所に、昭和初期最盛期にまえばし一流の大旅館住吉屋があつたよ。間口の広い純日本式の堂々たる構えだつた。その後、ここには昭和39年に県下初の百貨店として前三（前橋三越）百貨店が開店した。本格的な百貨店の開設は昭和の高度成長期到来を告げる象徴的な出来事だつたようだ。しかし昭和60年に惜しまれながら閉店した。

ボ ク…それにしても、色々と変化のあるまちだね。時代が流れる中、まちは移り変わると思うけど、名残惜しい感じがするよ。

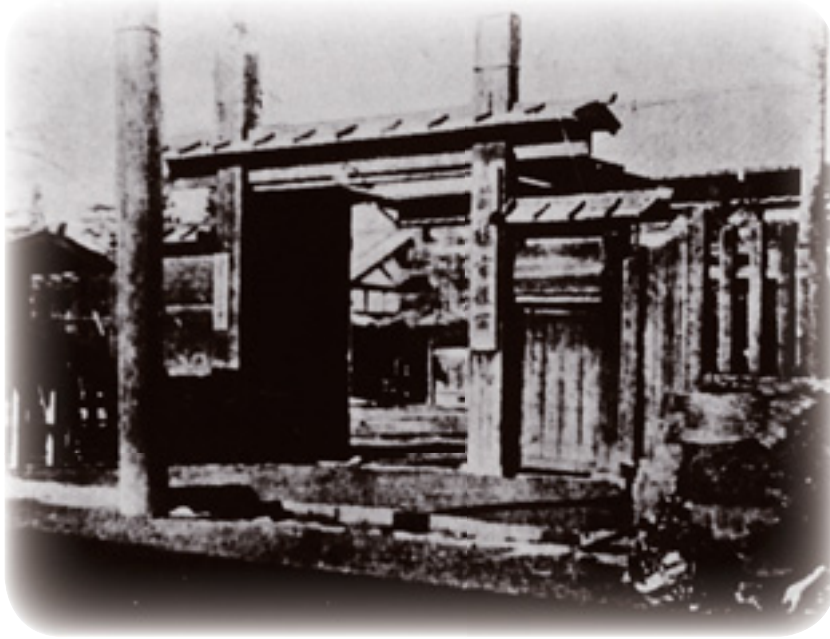
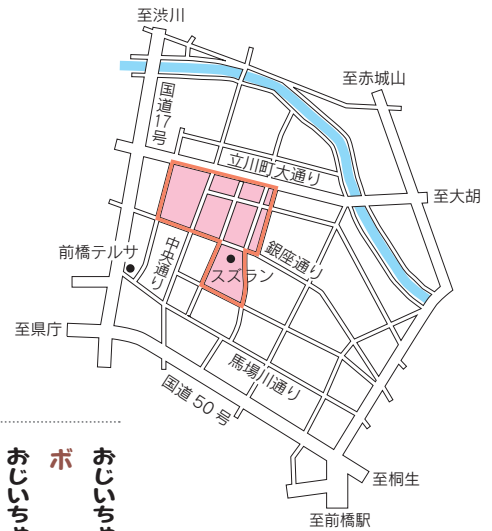
おじいちゃん…一つだけ残っているものがあるよ。今は違う町内になつているけど、堅町43番地という飛地にある神明宮があるよ。堅町の鎮守様なんだ。まえばし市内でも有数な広く立派な境内を持つていて、その、中の島をめぐつての静寂な池の風景は、思わず誘い込まれるほどの魅力をかもし出していて、五、六百年も経つという大松がそびえていて今でも健在だよ。

ボ ク…堅町は昔の面影がなくなつてしまつたけど、今でも、堅町通りという名前が残っているし、まちの鎮守様も残っているんだね。それにしても、ボクとしては路面

電車が消えてしまつたことは残念だね。道路交通事情があるのかもしれないけど、何とか復活できないものかなあ。
おじいちゃん…では、次回は横山町に行つてみよう。

横山町

Yokoyama-cho



明治時代の前橋市役所

おじいちゃん：今日は横山町に行ってみよう。

ボ：ク：なんて読むの？

おじいちゃん：「よこやまちょう」と呼ぶんだよ。

ボ：ク：いつからこの町名があるの？

おじいちゃん：江戸時代からあるんだけど、江戸初期は

前代田村、下之町（隣町2町を含む）と

いってたんだよ。その後、明治初年頃

までは横町（よこまち）と言っていたん

だよ。下之町は、先日訪ねた桑町、豎町、

そして横町に分かれたんだよ。そして明

治6年から横町を改称して横山町になっ

たんだよ。

ボ：ク：今はどこになるのかなあ。

おじいちゃん：横山町は今の銀座一丁目通り商店街界隈

だね。

ボ：ク：なんでそういう町名になったの？

おじいちゃん：前回訪ねた豎町が縦に町並みが連なっ

ていた事に対して、横に町並みが連なっ

ていたところから、横山町って付けたそう

だよ。

ボ：ク：当時の横山町だった様子を見てみたいよ。

おじいちゃん：昔は豎町が本道であったので、この辺り

は人家がまばらな淋しいところで、大半

は天王山実相寺という寺の境内だったそ

うだ。そして明治期前までの神仏混淆（しんぶつこんこう◎神仏習合ともいう）という思想で、全国に分社されている八坂神社を祀り、明治42年以來、小石神社の名で知られ、天王様として親しまれて

いたんだ。

ボ：ク：なぜ、小石神社と言われたの？

おじいちゃん：この神社には、素盞男尊（すさのうのみこと）と日本武尊（やまとたけるのみこと）を祭っており、神石は約150kgも

ある赤石だそうだ。大昔、日本武尊が東

夷征伐の途中、橋山の山頂で休まれ、相

模の海に入られた弟橘姫（おとたちばな

ひめ）を回想された時腰掛けられた石だ

という話が残っている。そして、実相寺の

方がここに移されて「恋し石」から小石

になったという話が残っている。

ボ：ク：何か、ロマンチックな話だね。この神様

のご利益は何かあるの？

おじいちゃん：その当時は陰陽道（おんみょうどう）に

関わる神社仏閣だったようで、結婚に、

また出産に縁起のいい神様とされ、子供

が産まれると実相寺に行き、名前を付け

てもらったそうさ。そして、小石神社は



明治初期、銀座通りにての小石神社の祭礼



老舗仕出し屋「鹿島屋」

ボ お西さまとも呼ばれ、商売繁盛を祈願して熊手などの縁起物を求める人々が繰り出したようだよ。また、夏の頃になれば、植木や虫を売る風流な夜店が毎夜たつたそうだよ。

ク このまちに住む人にとって人生に、また生活に必要なところだったんだね。ところで、今、この神社はどこにも見当たらないよ。

おじいちゃん 小石神社は昭和46年に敷島公園北側住宅地の中央に移転され、神社跡地はスズランデパートになり、現在に至っている。デパートの屋上には小石神社の分社が祀つてあるようだよ。

ボ **ク** 他に何かあるの。
おじいちゃん このまちで忘れてならない事は、明治22

ボ 年町村制が施行され、前橋町が誕生した時、横山町24番地に町役場が置かれ、そして明治25年市制が施行された事に伴つて市役所の庁舎となった事なんだ。

ク 市役所が今の街中であつたんだあ。
おじいちゃん 官庁だけではなく、先日訪ねた紺屋町同様、花街として巷に歓楽の匂いが濃かつた。多くの料理店や待合茶屋、貸席、貸座敷、魚屋、すし屋、てんぐら屋などの家並みが目立っていたんだよ。特に、現在のテルサの東の通り、中央駐車場の南

辺りに鹿島屋という老舗の仕出し屋があり、市内の料理屋などへ仕出しを引き受けていたようだよ。また、中央通りと銀座一丁目の交差する角に一躍百貨店に躍進した麻屋があつた。屋上には遊園地もあつたそうだよ。今も当時を偲ぶ建物の一部が見られるね。

ボ **ク** 時代の移り変わりの中で官庁やお店など色々と混在していて、活気のあるまちだったんだね。今も繁華街となっているけど、ほとんどなくなつてしまつたね。

おじいちゃん 今でも健在であるお店があるよ。銀座一丁目通り沿いに割烹料理である矢内(やない)があるよ。昔は矢内居酒屋店といつてさざえの壺焼(つばやき)が元祖だったようだけど、今はうなぎで有名だね。よし、今日の昼食はうなぎにしよう。

ボ **ク** わーい、うれしいなあ。
おじいちゃん では、次回は東隣の榎町に行つてみよう。